

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4月21日～

先週の相場は、株価は持ちなおしてきましたが為替相場はドル安の動きとなっています。

関税については、先週、日米交渉が行われましたが自動車については非関税障壁となっている安全基準の見直しなど求めてきたようです。

しかし、日本車ですら売れなくなっているのにアメ車が売れるとは思えません。

農産物については、コメ、肉、魚介類、じゃがいもなどをかうようにと言ってきたようですが肉や魚の消費はすでに落ち込んでいる状態なので、昔と違って今の日本の購買力を考えると輸入を大幅に増やすことは困難なように思えます。

今週は、23日～24日にG20財務相・中央銀行総裁会議があり、24日に加藤財務大臣と米国のベッセント財務長官が為替についての協議を行なう予定になっています。

おそらく、円高・ドル安を米国は要求してくるでしょう。

どの程度の円高を想定しているのかわかりませんが為替相場に影響が出ることは間違いないので、今から身構えておく必要があります。

また、関税については、2回目の交渉が今月末までに行なわれるということなので、こちらも注視しておかなければいけません。

日本は来週から連休モードに入りますが今年は相場が大きく動いているためリスク管理を徹底して、ポジションは少なめで急変に備える体制にしておきたいです。

先週の株価を見ると日本や欧州は戻っていますが米国株は週後半にかけて下げています。

ドル安、米国株安の流れはまだおさまっていないと考えておいた方がよさそうです。

NYダウは再び4万ドルを割り込んできてるので、再度3万7000割れを試す動きが出るかもしれません。金(ゴールド)も上昇しているためリスク回避的な動きは続いています。

マーケットは米国の利下げを想定していますが、FRBは関税の影響を見極めるため数ヶ月程度は様子見の可能性もあります。

トランプ大統領は利下げを要求していますが利下げがいつになるのかは読めない状況です。

そして、欧州と米国との関税交渉の行方も見ておく必要があります。

ドイツの景気は関税問題の前からかなり悪化していたのに、関税で自動車など製造業が打撃を受けるとリストラや倒産などのリスクも出てきそうです。

ユーロ/ドルのトレンドは今年に入ってから上昇に転じているので、このままユーロ高・ドル安が続くかどうか注目ポイントになります。

21日は、復活祭月曜日(イースター・マンデー)のため祝日の国も多いですが米国市場は開いてます。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週のドル／円はじわじわと円高が進み終値で142円あたりとなっています。
週足で見ても3週連続で陰線となっています。
高値が日足でも切り下がってきている状況なので、まだ下げ止まったとはいえません。
先週安値の141.6円を割り込むと2023年の年末の140円あたりの安値、昨年9月安値の139.6円あたりが下値のメドとなってきます。
ここも割り込むと138円あたりまで下落する可能性があるため注意がいります。
上値は143.2円あたりの抵抗を超えると144円が視野に入ってきます。
145円を超えてくるまでは下落リスクが高いと考えて取引した方がよさそうです。

<気になるクロス円>

クロス円は少し戻していますが方向感があまりなく停滞した動きのペアが多くなっています。
リスク回避的な動きはおさまっていますが、ドル／円の下値不安があるため大きく上昇していく可能性は低く、ある程度戻ってくれば戻り売りの動きが出る可能性があります。
しばらくはレンジ相場のような方向感のない動きになるかもしれません。
ユーロは161円を割り込むと再度160円割れのリスクが出てきそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4月東京都都区部消費者物価指数の発表があります。
米国では3月景気先行指標総合指数、4月リッチモンド連銀製造業指数、4月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、3月新築住宅販売件数、米地区連銀経済報告(ページブック)、3月耐久財受注、前週分新規失業保険申請件数、3月中古住宅販売件数、4月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。
欧州ではドイツとユーロ圏で4月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで4月IFO企業景況感指数などがあります。
ほかには、英国とカナダで3月小売売上高、ニュージーランドで3月貿易収支の発表などがあります。